

南海放送

活動名	メディアリテラシー授業「災害時の情報との向き合い方」
実施期間	令和 7 年 10 月 27 日・11 月 5 日
実施回数	学校訪問 1 回、社内見学 1 回

【実施学校】 今治市立朝倉小学校

【事業実施の成果・課題】

自分が暮らしている地域の情報を発信しているローカル局の内部に、子どもたちは大変興味を持ってくれていることを実感しました。テレビでは見学したスタジオから放送している番組は、ほとんどの児童が見たことがあると答えてくれました。一方で、ラジオについては「聞いたことがない」と答えた児童が多かったものの、今回スタジオを見学したり生放送に出演したりしたことで、ラジオというメディアに関心を持ってもらうことにつながり、直接はたらきかける機会の大切さを感じました。今回は、遠足の機会を利用しての局内見学という形をとっていただきましたが移動費用がかかることもあり、放送局から遠い地域の学校への働きかけについては工夫が必要だと感じました。

授業では、朝倉小周辺での山火事を経験し、身近で報道の様子を経験した児童もいたことで、非常に高い関心をもって「災害時の情報リテラシー」について考えてくれました。特に、授業の様子を取材に来た今治支局の記者が、実際に山火事取材にあたっていた記者だったことから、取材する側が感じていたことや心がけていたことをリアルに語ってもらうことができ、子どもたちも真剣に聞き入っていました。放送や公的機関が発信する情報と SNS などインターネット経由で個人が自由に発信する情報の違いについては、生成 AI の登場で今後ますます真偽を見分ける力が必要になってくることを重要だと感じてくれていました。災害に備えて放送局も訓練を重ねていることを伝え、児童たちも何が備えられるか、災害のときの情報への向き合い方などを家庭で話し合うことや訓練にもつなげました。

【事業担当者・講師の感想】

<佐伯りさアナウンサー>

放送局内見学では、目を輝かせながらスタジオの設備についての説明に耳を傾け、ラジオ出演でも臆することなく自分たちの意見をのべる姿が印象的でした。テレビの中で見ている風景に実際に触れることで、あらためて放送というものへの関心を高めてもらえたと感じます。また、災害時の放送への向き合い方についての授業では、自分たちの暮らす校区での山火事報道を経験した上で、実際に取材した記者からの話を聴いてもらったことで、より理解を深められたと思います。南海トラフ巨大地震へ向けて私たちが普段から備えていることや、これまでの災害時に起こったインターネット経由の情報の問題についてなど共に考えることで、自分事として感じてもらえるきっかけになれば幸いです。放送業界への興味関心を持ってもらうこと、災害時の情報リテラシーについて、どちらも子どもの頃からこちらから出向いて情報発信することの大切さを感じる機会でした。

＜三宅那央記者＞

記者・カメラマンとして今治の山火事取材した経験から、「信頼できる情報とは何か」、「命を守る行動の大切さ」の2 つについて伝えました。今回の山火事を含め地震や大雨、台風などの大規模災害時は、我々が当局を通じて知るよりも早く、SNS など様々な情報が飛び交うことから、それらが事実に基づくものであるか、偽情報ではないか、など各機関に確認を重ねながら取材を進め報道につなげていると話しました。また、カメラマンとして「目の前で起きていることを撮影して伝える」という使命があっても、自分の命を守るため避難を優先するという判断を求められる場面があるということも伝えました。児童からは「普段から生成 AI の偽画像に惑わされないようにし、災害が起きた時などは家族と自分の命を守りたい」という声が聞かれ、発したメッセージがきちんと届いたのだと感じました。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

＜教諭の感想＞

- ・身近な番組ができるまでに、たくさんの人が関わっているということについて、児童が体験を通して学ぶことができた。
- ・学校では見ることのできない、番組づくりのための施設や設備について、見たり触れたりすることができた。
- ・実際に番組作りに携わる方の経験を通した話を聞くことで、教室で学ぶ以上に、実感を伴って情報づくりについて学ぶことができた。

＜子どもたちの感想＞

- ・テレビ番組やラジオ番組がどのようにできるかがわかりました。
- ・番組づくりの速報性・正確性・公平性・公共性の4つの大事なポイントがわかりました。
- ・身の回りの情報を聞くとときや見るときに、どのようなことに気を付ければよいかわかりました。